



# 教 頭 会 報

第81号

発 行 平成16年10月1日  
編集兼発行人 半 田 公 人  
発 行 所 全国公立学校教頭会  
東京都港区愛宕1 - 6 - 7  
電話 03 - 3436 - 4868 ~ 9

## 第46回全国公立学校教頭会研究大会 第25回中国地区公立学校教頭会研究大会 第23回鳥取県公立学校教頭会研究大会 鳥取大会開催される

大会主題『生きる力をはぐくむ 開かれた学校づくりの推進と教頭のあり方』  
～「やさしさ」と「たくましさ」をもつ子どもの育成をめざして～

今年の全国研究大会は7月29日から31日の3日間、鳥取市で開催された。

全国から3000人近い教頭が集い、大会主題に沿って熱い協議が展開された。今回は鳥取県、鳥取市の全面的な協力を得、地元新聞社も記事を掲載するなど鳥取あげでの支援協力をいただいた。

開会式では、河村文部科学大臣様（代理初等中等局吉野視学官様）、片山鳥取県知事様、竹内鳥取市長様、藤井鳥取県教育長様、全日中を代表して山内鳥取県中学校長会長様より御祝辞をいただいた。

開会式に引き続き郷土文化の紹介が行われ、地元小中学生による一生懸命な演技に会場から盛んな拍手が送られた。

1日目の午後からは『「やさしさ」と『たくましさ』をもつ子どもの育成をめざして』をテーマに文部科学省森嶋調査官、山下第一生命陸上部監督、加藤鳥取環境大学長によるシンポジウム



が行われ、21世紀を担う子どもにとっての魅力ある学校づくりについて活発な議論がなされた。

2日目の分科会はまさに、本研究大会のメイン行事。16の分科会ではいずれも全国各地から教頭の役割をふまえた実践が報告された。様々な教育改革の中で、悩み・問題を抱えながらも、子どもたちのために日々努力している様子が手に取るように分かる発表であった。特別分科会では、教育関係者以外の方からの発表もあり、開かれた学校、教頭会の一端を垣間見ることができた。

3日目最終日は、日本のスポーツトレーニング理論をリードする小山裕史氏による記念講演、小野文部科学副大臣による特別講演があり、本研究大会が一層充実したものとなった。そして、この3日間を通じてIT推進委員会がインターネットで速報を配信するなど新しい試みが行われた。

最後に、鳥取県教頭会が一致団結し、素晴らしい大会運営をされたことに感謝したい。



# あいさつ 鳥取大会によせて

全国公立学校教頭会研究大会会長  
全国公立学校教頭会 会長 半田 公人



第46回全国公立学校教頭研究大会が、鳥取市で開催されることに感謝申し上げます。全公教の研究活動の発展にとって有意義な大会になることを期待します。

昨年の第45回定期総会で、創立以来初めての会則並びに運営規則の全面改正を行いました。そして、職能団体としての全公教の性格、位置づけをより鮮明にして組織運営や諸活動を推進することにしました。しかも「政策提言能力を備えた職能団体」をめざして新たな一歩を踏み出したのです。

そのための、全公教自身の主体的な活動もここ数年整備されてきています。例えば①4つの専門部の自律的・創造的な活動②IT推進委員会によるホームページの充実による情報の発信③学校運営誌の内容充実と社会的評価の高まり④顧問会の組織強化と研究講師団の充実等を挙げることができます。

さて、長崎県佐世保市で起きた事件は大きな衝撃を与えるとともに、子どもたちを取り巻く教育環境の厳しさを改めて認識することになりました。教育行政機関は通知を出し、対応や取組について指示しました。しかし、それらは従来の指導内容の域を出ないものが多く、この事件の核心に触れた処方箋を出すには至らないのではないのでしょうか。

2004.1、国連・子ども権利委員会は教育制度の過度の競争的性格が悪影響を及ぼしていると厳しい勧告を日本政府に出しました。今後、学校・保護者・地域・行政機関が新たな信頼関係づくりが必要で、管理職もより高度な専門性を求められる時代となりました。

この鳥取大会が、学校教育の推進にとって、意義ある研究大会になりますよう積極的な参加をお願いします。

# 第6期全国統一研究主題 「生きる力をはぐくむ 開かれた学校 群馬・札幌・大阪の成果をふまえ 鳥取大会

## 開会式

挨拶

祝辞



鳥取大会実行委員長

西尾和幸



文部科学省  
初等中等局視学官

吉野弘一様



鳥取県知事

片山善博様



鳥取市長

武内 功様

## 3日間の日程

時刻	9	10	11	12	13
月日					
第1日 7月29日(木) 鳥取県民文化会館	受付	開会行事	郷土文化の紹介	昼食	シン
第2日 7月30日(金) 16分科会場	受付	分科会	昼食	分	
第3日 7月31日(土) 鳥取県民文化会館	受付	記念講演	特別講演	閉会行事	

## シンポジウム

視点

- ① 「生きる力」の源となる「やさし
- ② 「やさしさ」と「たくましさ」を
- ③ 学校運営の推進役として教頭に



文部科学省初等中等教育局  
教育課程課教科調査官  
森嶋昭伸様

### 学校を創る力と管理職の役割

「やさしさ」と「たくましさ」は相反するものではない。両者をもった育成こそが、今、教育に求められている。

そのためには、知力と知性が不可欠で「確かな学力」が求められるとともに、学校が人間関係づくりの機能を十分果たすことが大切。

さらに、教育管理職のリーダーシップが不可欠で児童生徒、保護者、地域の力を結集し、学びの出会いの十字路としての学校のあり方を今後具体化することが求められる。

# づくりの推進と教頭のあり方」の最終年度



オリエンテーション  
研究部長 川名健治

## ・盛大に開催

### 分科会



鳥取県教育長

藤井喜臣様



鳥取県中学校長会長

山内武彦様



14	15	16
ポ ジ ウ ム		
科 会		



はじめての  
インターネット配信のために  
作業するIT推進委員会

### 郷土文化の紹介

- ① ふるさと他(鳥取市少年少女合唱団)
- ② さいとりさし(鳥取市立中ノ郷小学校)
- ③ 貝がら節踊り(気高町立気高中学校)
- ④ 童謡コンサート(移動わらべ館)

さ」と「たくましさ」とは  
もつ子どもを育成するために  
求められていること



第一生命保険相互会社  
女子陸上部監督  
山下佐知子様

#### 失敗を見守る勇氣

一流スポーツ選手は、強さ、美しさ、優しさの3つのうちどれが欠けても勝利が遠ざかってしまう。  
現役時代は、強くなりたい、美しいフォームで走りたいと思って、勝利には優しさは必要ないと考えていた。しかし、指導者(管理者)になると、一流選手には人に対する気配りや思いやりなど人の痛みを共感できる優しさがあることに気付いた。  
指導者として選手に助け船を出したり、余計に口出ししたり過ぎるのではなく見守る忍耐力も必要。



鳥取環境大学学長  
加藤尚武様

#### 学校教育の未来像

現在の学級を中心とした教育方法が出来上がったのはイギリスだと1820年頃である。その特徴は  
①教科書を使用し、一斉に同じ場所で学習  
②内容は易しいものから難しいものへ段階的構成  
③同一年齢でクラスを構成  
④多数の生徒に一人の教師  
しかし、情報化の進んだ21世紀では情報量に個人差があり、一斉進行はムリがある。従って、同一年齢の学級をつくる必要はない。ボーイスカウトのような異年齢で構成する集団を作るといい。

## 記念講演



演題「感性教育へのアプローチ」  
～筋肉の緊張は神経の緊張を招く～  
講師 トレーニング研究施設  
「ワールドウィング」代表  
小山裕史 様

### <講演の概要>

小山氏は大リーグのイチローや100M日本記録保持者の伊東浩司をはじめ数多くのスポーツ選手を指導するほか、交通事故や難病で身体麻痺になった人々のリハビリを担当し、驚異的な復活、進化、回復へと導き、現在日本のトレーニング指導の第一人者である。講演の中で、「楽しいから一生懸命になれるんですよ。」と笑顔で話され、やみくもに努力するだけでなく目標という方向性を指しながら導かれることで人それぞれが「求めているものに出会う」ことを力説されていた。実演の中で、従来の腹筋・背筋強化運動では、かえって柔軟性を欠く結果になることを示し、会場は感嘆の声をあげた。また、ビデオの中で、麻痺した方々が回復していく現象は、感動に満ちていた。最後に、「しなやか心は、しなやかな肉体に宿る」と「しなやかさ」の大切さと、指導者は競技者や患者さんの心に寄り添う感性が必要だと締めくくられ、会場からは、われんばかりの拍手が送られた。



地元新聞に大きく紹介される。



## 特別講演

演題 「夢出せ！知恵出せ！元気出せ！」  
講師 文部科学副大臣 小野晋也 様

### <講演の概要>

政治にかける副大臣の情熱が伝わる熱い講演で会場を引きつけた。混迷する教育界に携わる者として、夢を持ち、知恵を出し、元気を出そうと教頭に励ましをいただいた。さらに、御自分の思いを綴った自作の歌をアカペラで披露された。



## 閉会式



半田会長

私なりに今大会のキャッチフレーズを「ゆったり、ゆっくりに、しっかりと」と表現したい。鳥取らしさが全面に出た素晴らしい大会であった。



西尾実行委員長

少ない会員で全国大会が開催できるか不安であったが、鳥取県教頭会が全力をあげて取り組み、全国から多くの参加を得たことに感謝する。



川口宮崎県会長

本当に素晴らしい研究大会で次期開催県として大変参考になった。来年はサミットが行われた宮崎シーガイアなので、全国の皆さんをお待ちしている。

鳥取大会の研究大会の模様はインターネットで！

パスワードは各都道府県、事務局にお問い合わせください。

全国公立学校教頭会(全公教)のホームページアドレスは <http://www.kyotokai.jp> です。教頭会と入力しても検索が可能です。

## 平成16年度 全国公立学校教頭会顧問会

本会は、全国公立学校教頭会の組織強化及び活動の充実・発展のための援助を行うことを目的として、平成11年度より活動しています。平成16年度顧問会は、全国研究大会鳥取大会終了後、7月31日(土)鳥取市において開催しました。

### 次第

- 1 会長挨拶
- 2 平成15年度活動報告について
- 3 規約の改正について
- 4 平成16年度役員体制について
- 5 平成16年度活動計画について
- 6 平成17年度宮崎大会助言者団の充実及び組織強化について

### 要旨

- 1 活動報告について
  - (1) 全国研究大会大阪大会について
    - ①研究大会助言者に顧問会より6名、助言者リストより4名参加
    - ②顧問会総会にて、溝口会長はじめ役員留任を決定
  - (2) ブロック長会(米子市)に参加
    - ①顧問会役員が参加し組織強化を行った。
    - ②平成16年度研究大会に向けて、顧問会として助言者派遣協力の確認を図る。
  - (3) 平成15年度全公教役員会等に役員5名が交代で参加
  - (4) 学校運営誌編集委員会に専門委員として参加
  - (5) 全公教監修「学校管理・運営実務」の企画・執筆等に参加
- 2 規約の改正について

第3条、第4条について改正されました。

第3条 本会の会員は、平成11年度以降の全国公立学校教頭会の会長、副会長経験者とする。また平成11年度以降、全国公立学校教頭会の役員として複数年活動した者で、顧問会が推薦した者とする。但し、会員の資格は在職中とする。

第4条 本会は、年1回全国公立学校教頭会大会終了後に、総会を持つ。また、必要に応じて会長が招集する。なお、構成員は、会員及び全国公立学校教頭会の会長、副会長及び役員とする。

### 3 役員体制について

- ・会長 溝口好清 名古屋市立守山中学校
- ・会長代理 今村文彦 南国市立香南中学校
- ・幹事長 中嶋直充 千葉市立更科小学校
- ・幹事 杉淵光芳 所沢市立富岡小学校
- ・幹事 和田 豊 さいたま市立大宮南中学校

### 4 活動計画について

- (1) 全国大会に向けての活動予定
- (2) 学校運営誌編集委員会に専門委員として参加
- (3) 全公教監修「学校管理・運営実務」の企画・執筆の協力
- (4) 適時顧問会活動資料を送付する等、活動が見える工夫をする。
- 5 宮崎大会助言者団の充実及び組織強化について
  - (1) 鳥取大会助言者(10名)

阿部敬行 岩手 盛岡市立高松小学校長  
三島信二 新潟 加治川村立加治川小学校長  
菅野光雄 福島 福島市立鳥川小学校長  
渡部 孟 神奈川 小田原市立早川小学校長  
桶本真哉 奈良 平群町立平群西小学校長  
源 茂子 北海道 札幌市立簾舞中学校長  
藤田清千 埼玉 川島町立美保谷小学校長  
稲木幹夫 山梨 一宮町立一宮北小学校長  
白濱市和 大阪 堺市立浅香山中学校長  
天野昌明 佐賀 鳥栖市立旭小学校長

### (2) その他

会の最後に全公教顧問の方々から、全国大会における助言者団の派遣の充実を図っていただくとともに、全国大会の更なる発展のために今後力強い支援をいただけることを約束していただきました。

平成16年度

## 第1回全国研究部長会

期間：平成16年7月1日(木)  
2日(金)

場所：虎ノ門パストラル

全国から各単位教頭会の研究部長と本部役員他、合わせて78名の出席のもとに開催された。今回は鳥取大会の特別分科会の取組と第7期全国統一研究主題と課題について協議が行われた。また、第1日目は、上越教育大若井彌一教授の「職能団体としての教頭会」と題して講演が行われた。

<第1日目>

(1) 開会式

(2) 全体会

- ・第7期「全国統一研究主題及び全国共通研究課題」について

説明：川名研究部長

(3) 講演

- ・演題 「職能団体としての教頭会」

- ・講師 上越教育大学教授

若井 彌一 先生



説明責任時代に入った学校における管理職の役割、とりわけ教頭の役割はますます重要な位置になっていること、「厳しい時代だけに元気を出してがんばろう」と教頭への力強い

激励をいただき教頭にとって元気が湧き上がる講演であった。

<第2日目>

(1) ブロック別懇談会

- ・各ブロックでの研究の取組紹介
- ・第7期全国統一研究主題と課題について
- ・講演「職能団体としての教頭会」について

(2) ブロック別懇談会での内容報告

(3) 全国大会(鳥取・宮崎)について

(4) 閉会式



平成16年度

## 全国要請推進部長会

期間：平成16年7月21日(水)  
22日(木)

場所：虎ノ門パストラル

全国から要請部長、役員他90名余が出席。全体会の後、国会議員に要請活動を行い、丁寧な対応をいただいた。

本部役員と当日要請活動のない要請部長は、文部科学省初等中等企画課より最新の教育動向について説明をいただいた。

22日はブロック懇談会、品川区・若月秀夫教育長の講演会が行われた。

<平成16年度総務部活動計画>

1 全国要請推進部長会の開催

①要請活動(文部科学省、国会議員)

②全公教総務部の役割の説明

③ブロック別懇談会

④講演 品川区教育長 若月秀夫氏

2 義務教育費国庫負担制度を守るための取組

3 人材確保法堅持に関する取組

4 文部科学省との関係を深める取組

①全国要請推進部長会での初等中等教育企画課長との懇談

②全国研究大会鳥取大会での小野文部科学副大臣の特別講演

5 全国研究大会鳥取大会の支援

6 全国要請担当者研修会の開催(12/27)

7 年間を通じての活動

①「Q&A学校管理・運営の法律実務」の改訂

②「教頭会倫理綱領」策定への取組

③現在の教育課題に関する全公教としての意思統一

講演内容の紹介

- ・演題「これからの学校の管理・運営を考える」

- ・講師 品川区教育長 若月秀夫氏

学校選択制、小中一貫教育、外部評価制度、六三制の見直し等、教育改革を積極的に進めている品川区であるが、これらは手段であって、改革の目的はこの時代に合った学校の体質改善と教員の意識改革が必要であると力強い講演会であった。



シリーズ

# 北の南のブロック教頭会

九州ブロック & 関東・甲信越ブロック

## 九州ブロックの活動

「九州はひとつ」を合言葉に

九州ブロック長 松下 一行

### 1. ブロック概要

沖縄、鹿児島、宮崎、大分、福岡、長崎、佐賀、熊本の8県で構成され、会員数4756名です。

九州大会は、夏季休業中に開催されることが多い。今年度の研究大会（第44回）は、日本三大名城のひとつ熊本城がそびえる、熊本市が会場となり、8月3日と4日に開催されました。

本大会への参加者数は1525名にもものぼり、大盛況の内に終わることができました。各分科会とも会場はほぼ満員となり、白熱した議論が展開され、又、全体会では音楽家岩代浩一先生による「日本の子供が失いつつあるもの」という演題で感動的な講演を拝聴することができ、充実した深まりのある研究会となりました。



### 2. 九州ブロック活動方針

- (1) 教頭職としての職責の重大さを自覚し、研究活動を深め発展させるとともに、学校教育の質的向上と社会の変化に即応した学校運営の推進に努める。
- (2) 管理職としての教頭の職務内容を明確化するとともに、教頭の地位の確立とその向上に努める。

- (3) 九州各県の情報交換を密にするとともに、連携して組織の充実を図る。

### 3. 九州ブロック事業計画

#### (1) 基本方針

ア 九州地区教頭会員の総力を結集して、時代の要請に即応した学校教育推進のための学校運営の研修に精進し、所期の目的達成に努める。

イ 全国統一研究課題に基づき、第44回九州地区公立学校教頭会研究大会熊本大会を開催し、研究の充実を図り、各県会員の連帯意識を高める。

ウ 九州各県教頭会の情報交換を密にし、職責に見合う地位向上のために実効ある活動を推進する。

#### (2) 主な事業計画

5月28日（金） 第1回代表者会（会長、研究部長）

5月28日（金） 提言原稿締切

6月14日（月） 熊本大会参加申し込み締切

8月2日（月） 第2回代表者会・熊本大会前日打ち合わせ会

8月3日（火）・8月4日（水）

第44回九州地区公立学校教頭会研究大会  
熊本大会

10月29日（金） 熊本大会報告誌発行

11月5日（金） 第3回代表者会（会長、研究部長、要請部長）

11月12日（金） 事務担当者会

12月13日（月） 会報原稿締切

1月7日（金） 事務引継会

2月18日（金） 会報発行

2月25日（金） 会計監査（長崎県・宮崎県）

今後とも九州各県と各会員との結びつきが深まっていくことを期待します。

## 関東・甲信越ブロックの活動

『教育改革真っ直中の教頭として』

関東甲信越ブロック長 吉原 龍美

学習指導要領の改訂から、本年度は3年目です。今日、学校には様々な教育改革の波が押し寄せる中、各学校では開かれた学校づくり・特色ある学校づくりに邁進してきました。本年度は、昨年度にあきらかにされた課題を解決しながら新たな問題の解決にも積極的に取り組み、山積みされた教育的課題（学力・いじめ・不登校・不審者侵入など）への学校や教頭としてのあり方について議論を深めていく重要役割を担った年であります。

関東甲信越ブロックに集結する1都8県（東京・神奈川・埼玉・茨城・千葉・栃木・山梨・群馬・新潟）の教頭会会員8,978名は、各都県単位教頭会の特性を生かしながら互いに切磋琢磨し、関東甲信越ブロック教頭会の組織として

の共通課題と共通認識に立って、諸課題の解決とブロック教頭会の組織の強化へ向けて諸活動を推進して参ります。

本年度は、11月11・12日の両日に、第45回関東甲信越地区教頭会研究大会神奈川大会並び第37回神奈川県公立小学校教頭会研究大会・第42回神奈川県公立中学校教頭会研究大会が横浜市を会場として、約2,100名のブロック教頭会会員の方々のご参集をお願いしつつ、盛大な研究大会になるように準備が進められております。多数の関東甲信越地区の教頭会会員の皆様のご参集を心からお願い申し上げます。

教頭としての学校における役割は、年々その仕事量の増大さや責任の重さから見ても重要であります。教頭の職務内容を洗い出し討議する中で、学校教育の課題や問題が浮き彫りにされ共通認識されることにより、解決策が見出されるのではないかと考えられます。教頭が心がけなければならないことも明確になることでしょう。

## 【関東甲信越ブロックの概要】

- |   |  |
|---|--|
| 1 構成都県（1都8県）<br>東京・神奈川・埼玉・千葉・茨城・栃木・群馬・山梨・新潟<br>長野県未加入（平成16年度現在）   | ・16年度事業計画並びに予算執行状況等の報告及びそれに伴う協議  |
| 2 会員数 8,978名（平成16年度）<br>前年度比 - 19名  | ・研究大会神奈川大会前日調整   |
| 3 会費 1,200円   | ・17年度関ブロ東京大会進捗状況報告   |
| 4 運営役員構成<br>会長1名・副会長3名・書記2名・会計2名・監事3名・理事11名・代議員88名 計110名  | 第45回関ブロ研究大会神奈川大会開催<br>・平成16年11月11・12日 横浜市  |
| 5 事業計画<br>関ブロ教頭会事務引継会<br>・平成16年2月23・24日 横浜市<br>・千葉県より神奈川県へ事務等を引き継ぐ。<br>平成16年度提言者研修会・研究部長会<br>・平成16年6月29・30日 横浜市<br>・神奈川大会に向けた研究内容基調の協議<br>第1回役員会・理事会<br>・平成16年6月24日 横浜市<br>・16年度総会提案議題（活動計画・予算案・事業計画・研究大会等）の検討<br>第45回関東甲信越地区教頭会定期総会<br>・平成16年6月25日 横浜市<br>・16年度活動計画・予算案・事業計画・研究大会関連予算案等の承認<br>第2回役員会・理事会<br>・平成16年11月10日 横浜市 | ・研究主題<br>『生きる力をはぐくむ開かれた学校づくりの推進と教頭のあり方』<br>・副題<br>- たくましく創造する子どもの育成と活力のある学校づくり -<br>・日程 全体開会行事・分科会（10課題14分科会）・アトラクション・記念講演・閉会行事<br>・参加数 約2,100名<br>要請部長会・事務局連絡会<br>・平成16年12月2・3日横浜市<br>・各都県要請活動の報告と課題の協議<br>第3回役員会・理事会<br>・平成17年2月8・9日 横浜市<br>・16年度活動・事業の進捗・予算執行等の報告と協議<br>・16年度研究大会神奈川大会の総括<br>・17年度研究大会東京大会の進捗状況報告<br>関ブロ教頭会事務引継会<br>・平成17年2月21・22日 東京都<br>・神奈川県より東京都へ事務等を引き継ぐ |